(21)

氏名(生年月日)　小林喜和子（コバヤシ キワコ）
本　　籍
学位の種類　医学博士
学位授与番号　乙第282号
学位授与の日付　昭和52年7月8日
学件授与の要件　学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目　**喉頭角化症（喉頭前癌状態）の臨床的ならびに組織学的研究**
論文審査委員　（主査）教授　上村　卓也
（副査）教授　今井　三喜，教授　久保田くら

論文内容の要旨

研究目的

喉頭における前癌状態としては，従来ロイコプラキー，角化症，パピデルミー，乳頭腫などがあげられている．これらの臨床像はそれぞれ異なつているが，組織学的には共通の所見もそなえており，kleinsasser らにより種々の分類が試みられて来た．しかしなお見解の一致をみていない．そこで著者はこれら一連の疾患についての臨床的観察に加えて，その組織学的分類を行なつた．

研究対象および研究方法

東京女子医科大学耳鼻咽喉科外来を訪れ，前癌状態の診断のもとに手術を行なつた34例を研究対象とした．これらの症例に対し，術後観察を行うと共に，組織学的にはヘマトキシリン・エオジン重染色，パス染色を行なつて検索した．

研究結果

組織学的にこれらの病変は，上皮の肥厚と角化とを共通点としていることから，角化症という名称に統一し，細胞異型の有無により次の3型に分類した．

1)　単純角化症（10例）

上皮の肥厚と角化のみで，細胞異型の見られないもの．

2)　部分的異型を伴う角化症（11例）

上皮層の一部に細胞異型，核分裂像などが見られるが，限局しており，上皮の構築は変わらないもの．

3)　上皮内癌を伴う角化症（13例）

核の大小不同，極性の欠如などが上皮層全体にみられるが，基底膜は保たれているもの．

分化程度によりさらに次の3型に分類した．

i）未分化型上皮内癌

ii）中間型上皮内癌

iii）分化型上皮内癌

臨床的に本症は再発傾向が強く，34例中10例（29%）が再発した．うち4例（11%）が浸潤癌へと移行し，1例は喉頭全摘出術を行なつた．

考案ならびに結語

本症の悪性化例4例の組織型を調べてみると，部分的異型角化症よりの悪性化2例，上皮内癌を伴う角化症よりの悪性化2例であつた．しかし単純角化症より悪性化したものは1例もなかつた．

一方，単純角化症でも上皮細胞の腺排泄管への進入が見られた．この腺排泄管への上皮細胞の侵入が，本症再発の一因であると思われた．

以上の事から本症の治療にあたつては，

(1)　細胞異型の見られるものは，それが限局していても悪性化する可能性が充分あるので，経過観察を厳重に行う必要があること．

(2)　病変部の切除に際しては，粘膜下の腺排泄管を一諸に切除する事が大切であることが判つた．

論 文 審 査 の 要 旨

本論文は，喉頭の前癌状態として論議を呼んでいる喉頭角化症について，組織学的所見による分類法を提唱すると共に，その治療方針を明確にしたものであり，学術上価値あるものと認める．

主論文公表誌

喉頭角化症（喉頭前癌状態）の臨床的ならびに組織学的研究．

耳鼻と臨床 **23**巻 1号 44〜57頁（1977年1月）

副論文公表誌

1) Sjögren 症候群の1例．
東女医大誌 **41**（3） 225〜 229（1971）

2) カフ付き食道鏡より摘出した食道異物例（義歯）
耳鼻と臨床 **17**（1） 44〜46（1971．4）

3) 面側頚部廓清術（両側内頚静脈切除）後の稀な合併症の1例．
耳鼻咽喉科展望 **14**（3） 27〜32（1971．6）

4) 喉頭の前癌状態について．
東女医大誌 **41**（9） 703〜 711（1971）